

はちまぎ こ よう  
八巻古窯群

所在地 知多郡東浦町緒川字八巻  
(北緯34度58分18秒 東経136度55分3秒)

調査理由 街路事業3・3・6名古屋半田線

調査期間 平成21年5月

調査面積 50㎡

担当者 宮腰健司・鶴飼雅弘



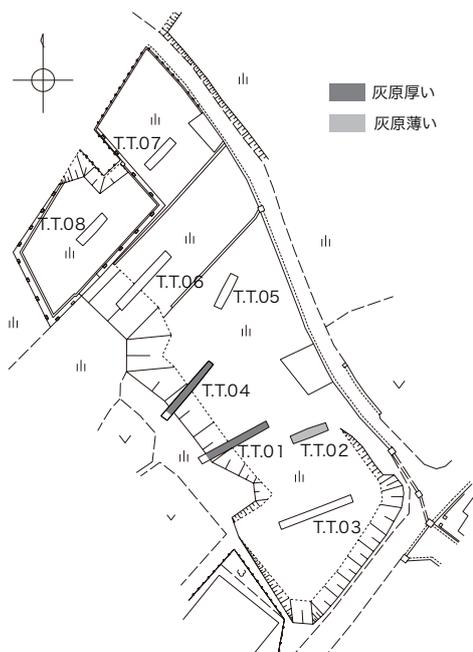
調査地点(1/2.5万「刈谷」)

調査の経過 調査は県建設部都市整備課知多建設事務所による街路事業3・3・6名古屋半田線建設に伴う範囲確認調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成21年5月に実施した。調査では、南西斜面部に幅0.8m、長さ10mのテストトレンチを3ヶ所(T.T.01・04・06)と幅1m、長さ5mのテストトレンチを1ヶ所(T.T.08)、東側の谷部分に幅0.8m、長さ5mのテストトレンチを2ヶ所(T.T.02・05)と幅1m、長さ5mのテストトレンチを1ヶ所(T.T.07)、南側の谷最奥部に幅0.8m、長さ10mのテストトレンチを1ヶ所(T.T.03)設定した。

立地と環境 八巻古窯群は丘陵頂部から北西に向かって開口する小支谷の南西側斜面に所在し、昭和36年の調査では平安時代末～鎌倉時代に属する3基の窯体と灰原が確認されている。

調査の概要 調査の結果、窯体は確認できなかったが、T.T.01・02・04で灰原が検出された。南西斜面部に設定したT.T.01・04とも谷側7～8mにわたって灰原の広がりが確認され、厚さはT.T.01が50～85cm、T.T.04が25cmを測る。両テストトレンチとも、灰原は山側において削平を受けたように途切れており、上方には延びていない。T.T.02は谷の最奥部付近にあたる地点と考えられ、厚さ17cmの灰原がほぼ平行堆積する。灰原が検出されなかったT.T.03は谷地形の最奥部にあたり、T.T.05～08にかけては現地表面下250～300cmを越える深い谷部となる。

(宮腰健司)



八巻古窯群テストトレンチ配置図(1/500)



八巻古窯群範囲確認調査地(北から)



T.T.01